

新入生のみなさんへ ～ 校長からのメッセージ ～

入学式の式辞に代え、高取国際高校への入学に際して、皆さんの高校生活がより意義深いものとなるよう、三つのお願いをします。

校訓を学校生活の指針に

一つ目は、本校の校訓にある「さとく きよく ゆたかに たくましく」を、これからの指針としてもらいたいということです。

「さとく」は理性を磨くことや感覚を研ぎ澄ますこと。「きよく」は何事にも清い心で誠実に対応すること。「ゆたかに」は知識や感性の豊かさを示し、「たくましく」は心身ともに鍛錬して、忍耐力を持って力強く歩む姿勢を示しています。この校訓を胸に、日々主体的に努力することによって、皆さんがよりよく成長していくことを願っています。

少しの勇気と思いやりを

二つ目は、磨いた内面を行動として表わせる人になるよう、心がけてほしいと思います。

令和3年(2021年)は、東日本大震災から10年目となる節目の年です。3月11日の前後では、様々なニュースがテレビや新聞等で報じられていましたが、どのような報道に皆さんは関心を持たれましたか。私は、震災当時にテレビでよく流れていたAC Japanの広告に関して、久しぶりに振り返る機会があったことがとても印象に残っています。

ここは誰にも見えないけれど ころづかいは見える

思いは見えないけれど 思いやりは見える

という広告です。

少しの勇気と思いやり(例えば、列車内で困っている人に席を譲ることや声をかけること等)で、随分と身の回りは明るくなると思いますが、いかがでしょうか。辛いときやしんどいとき、ちょっとした心配りが本当にありがたく思える経験を、皆さんもされたことがありますよね。そんな経験を、皆さんが生まれるより随分前の阪神・淡路大震災の時にも、私はたくさんしました。是非、心に留め置いてください。

日々の積み重ねを大切に

三つ目は、夢の実現のために、日々の積み重ねを大切にしてほしいということです。

水泳選手の池江璃香子さん。一昨年前に突然発病された白血病と闘い、ひたむきに努力されている池江選手は、2024年のパリ五輪を目指して頑張ると闘病中に言われていました。その池江選手が、この4月4日の大会で東京五輪への出場を勝ち取ることを、一体だれが想像していたでしょうか。

「努力は決して裏切らない」と、インタビューに答える池江さんの姿をテレビで見て、私も含めて、多くの人が心を動かされたと思います。夢の実現を願い続けることや、一生懸命に努力し続ける日々を積み重ねることの大切さを、私たちに改めて示してくれた今回の快挙に、みんなが拍手を送ったと思います。私たち一人一人も、毎日の時間を大切に送り、夢の実現のために、ともに努力していきましょう。

高取国際高校での生活が実り多きものとなるよう期待しています。

令和3年4月9日

奈良県立高取国際高等学校長 渡部 憲一